

# 法曹ってどんな人？

～裁判所編～



10月1日って、何の日か知ってる？

「法の日」ですね！国民の皆様にも、法の役割や重要性について考えていただくきっかけになるようにと、「国をあげて法の尊重、基本的人権の擁護、社会秩序の確立の精神を高めるための日」として定められた日なんですよ。



名古屋地方裁判所  
任野 孝治 広報係長



へ～そうなんだ！法ってちょっと敷居が高いイメージだけど、実務に携わる人ってどんな人なんだろう？

裁判の実務に携わる裁判官、検察官、弁護士のことを一般に「法曹（ほうそう）」と呼んでいます。今日は特別に、裁判官に話を聞きに行ってみましょう！



...



こんにちは！名古屋地方裁判所刑事2部で裁判官をしています、石川颯人と申します。

本物の裁判官だ！ぜひ、法曹についてお話を聞かせてください。



名古屋地方裁判所刑事2部  
いしかわ はやと  
石川 颯人 裁判官

はい、今日はよろしくお願いします。まず私の自己紹介をさせてください。  
私は裁判官になって9か月ほどの新米裁判官です。出身は沖縄県那覇市で、大学時代は東京で暮らし、その後縁あって、名古屋で裁判官としての人生をスタートすることになりました。国内・国外を問わず旅行が好きです（最近はなかなか難しいですが…）。それと、猫が大好きで、近頃は、職場からの帰り道で猫を見つけるたびに、しばらく足を止めて、その姿を眺めて幸せを感じております。  
せっかく初任地として名古屋に来ることができたので、名古屋観光や名古屋メシをしっかりと楽しんで名古屋通になりたいと思い、日々情報収集に励んでおります。

裁判官は、どんなお仕事をしてるんですか？



私は、担当する事件の法廷に出て裁判に携わったり、裁判になる前の捜査機関による被疑者の身柄拘束を認めるかどうか判断したりするなど、刑事事件に関わる仕事をしていますよ。

大変なお仕事ですね。



新米裁判官として、初めてのことも多く、苦戦の日々ですね。でも、その事件に関係する様々な人の人生に大きな影響を及ぼす重要な判断をするわけですから、先輩の裁判官にアドバイスをもらいつつ、懸命に目の前の仕事に取り組んでいます。





裁判官の職場って、想像がつかないけど…どんな雰囲気なんだろう？



私のような新米裁判官は、基本的に**裁判官3人のチームで事件にあたる**のですが、同じチームの先輩裁判官は、私がいまいちわからないことや悩んだことにも丁寧に助言してくれるので、**とても相談しやすい雰囲気**ですね！それに、裁判所には、これから法曹や職員として活躍していく方が研修に来ることも多いので、そのような方々とも切磋琢磨し、時には雑談に花を咲かせつつ、**楽しく充実した日々**を送っていますよ。

そういえば、石川裁判官は、どうして裁判官になろうと思ったんですか？

実は子供の頃は**パイロットにあこがれていた**のですが、視力が悪くなり、早々と挫折しました(笑)。大学時代、就職活動を通して「何か自分の武器となるスキルを持ちたい」と思うようになったことから司法試験を受け、その後、ロースクールや司法修習で法曹の皆様と関わる中でやりがいや魅力を知り、法曹界に飛び込むことに決めました。最終的に裁判官を選んだのは、法曹の中でも、**公正・中立な立場で、最終的な判断**をしていく、という役割にあこがれ、自分もその一翼を担っていきたくて考えたことが、一番大きかったですね。

(裁判官は数年に一度の転勤があるので、日本の色々なところで生活できたら楽しそうだな、と思ったことも実は理由の一つですが…)

刑事事件ということは、**裁判員裁判**もあるんですよね。もし選ばれたらと思うと、法律知識もないし、**ちょっと不安**なんですけど…

安心してください。**裁判官や職員がしっかりサポート**しますし、日常生活で行っているのと同じ判断をしてもらえば良いので、**法律知識は特に必要ない**ですよ。実際に、**裁判員の方の考え方やご経験**などを共有していただき、全員で議論したことで、**より慎重かつ丁寧な判断**ができた経験もあります。裁判官として、裁判員の皆様の色んな考え方や価値観に触れることができるのは、**裁判員裁判における大きなやりがい**の一つであると感じますし、裁判員の皆様にも9割以上の方に「**よい経験と感じた**」と言っているため、もし選ばれたら、ぜひ参加してみてください！

それに、裁判所には、裁判員の方や裁判の傍聴人をはじめ様々な方々がいらっしやるので、新型コロナウイルス対策については、裁判官や職員で議論をしながら、来庁者等の安全のために必要な**感染防止策**を実施していますよ。  
詳しくは、裁判所のウェブページ  
[https://www.courts.go.jp/nagoya/saibanin/kansen\\_boushi/index.html](https://www.courts.go.jp/nagoya/saibanin/kansen_boushi/index.html)  
に掲載されていますので、よかったら見てみてくださいね。



そっかあ。それなら安心だし、やってみても良いかなあ。



私も、時には裁判員の皆様に一番若い裁判官ということでイジっていただいたり、時には生粋の名古屋っ子の方に名古屋のすばらしさを熱弁いただいたりなど、**裁判員の皆さんとのコミュニケーション**も、とても楽しみにしているんですよ。



裁判官といえば、難しい判断をすることも多いと思うんですが、**判断に悩んだ時**、どのように解決しているんですか。



裁判、というと、なんとなく、法律的な判断が中心で、学術的な調査や検討によって結論を出していくというイメージを持たれがちかもしれません。  
もちろんそのような場面もありますが、判断の難しさを感じるのは、むしろ、やや大雑把な表現になりますが「**社会常識に基づく判断や価値判断を問われるもの**」が大半です。そのような点について悩んだ時には、まず、それぞれの主張をしている当事者の皆様に、疑問点などについてご説明いただき、さらに、過去の事例を参照したり、先輩や同期の裁判官にアドバイスをいただいたりしながら、最終的には、自分で**責任をもって判断**していきます。



裁判官は大変だけど、やりがいのある仕事なんですね。  
…あれ、裁判官、胸元に光るそのバッジは？



これは、裁判所のバッジですね。「三種の神器」である「<sup>やたのかがみ</sup>八咫鏡」がモチーフになっていて、裁判所の「裁」の文字が入っています。清らかで、**はっきりと曇りなく真実を映し出す**ことから、**裁判の公正**を象徴するものと言われているんですよ。



黒い法服にも、意味があるんですよ。



そうなんです。法服の黒は、「**他の色に染まることがない**」公正さを象徴する色として、最適であると考えられたためと言われています。私も初めて裁判官になって身に着けたとき、身が引き締まる思いをしたことを覚えています。  
ちなみに、余談になってしまいますが、法服は、その材質やデザインから、なかなか風を通しにくく、特に夏場などは、法廷で法服を着ていると、空調がついていても暑いこともあり、傍聴席などからはなかなか気づかれないでしょうが、実は、裁判官は、**法服の下で暑さとも戦っている**、ということもあります(笑)。



そういえば、法廷にいる書記官も黒い服を着ていますよね。裁判所には、裁判官以外にどんな職員がいるんですか？





そうですね！まず、**裁判所書記官**は、いわば**裁判手続のプロフェッショナル**であり、**裁判官と二人三脚**で、常に**コミュニケーション**をとりながら、日々の裁判を進めています。



そして、**裁判所事務官**は、裁判手続関係に限らず、**裁判所を運営するにあたって必要な職務**を幅広く担っており、たとえば、**裁判員裁判に必要な資料や会場の準備**などは、主として事務官の皆さんが担当しています。事務官の存在は、裁判官としても非常にありがたいですし、事務官が書記官になるための試験の勉強方法について、若手の裁判官が、事務官から相談を受けたりすることもあるんですよ。



さらに、**家庭裁判所調査官**は、夫婦間・親族間の紛争や、少年が犯罪を起こしてしまった事件などにおいて、**判断に先立つ事前調査**を担当します。その調査結果を前提に、裁判所としてどのように手続を進めていくかについて議論し、答えを出していくわけですから、**個別の事件や判断に、より深く主体的に関わっていく重要な役割**を担っています。その他にも、裁判所には**非常勤職員**を含め様々な仕事を担う職員がいますが、今日はこの辺で・・・

裁判所には裁判官以外にも、思った以上に色々な人が協力して働いているんですね！



そうですね、事件を扱う際は、様々な職種がチームとなって取り組んでいるんですよ！



今日はありがとうございました。裁判官って怖い人だと思っていたけど、今日でちょっとイメージが変わりそうだなあ。



そう言っていただけると嬉しいです。



石川裁判官、ありがとうございました。

